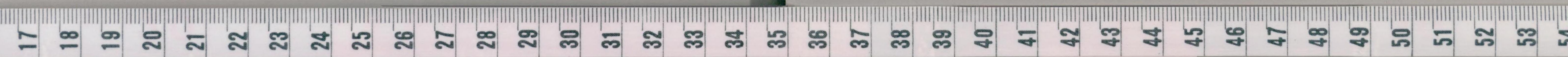
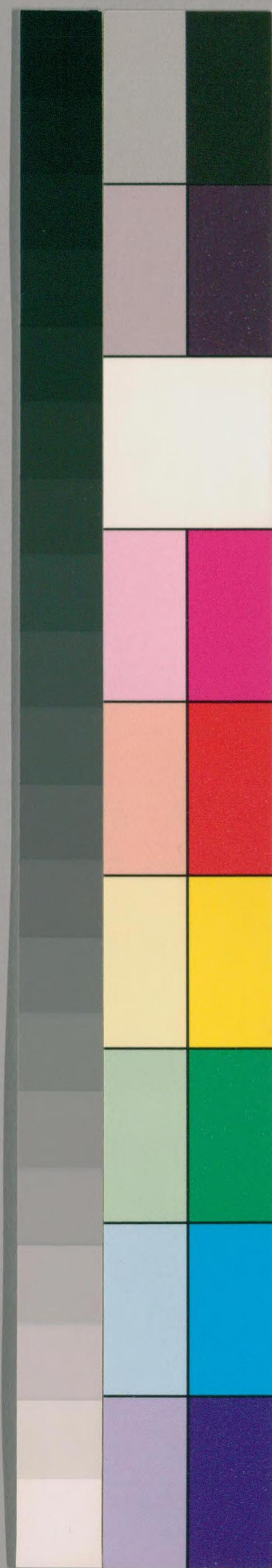


銅座御用留

四

WA19
(4)止
24



国立国会図書館 タイトル『銅座御用留』 請求記号 WA19-24

ガラス使用

九
十
十一
十二

之
所
以
也

此
乃
其
理

也
其
理
之
由

也
其
理
之
由

五
回
定
年

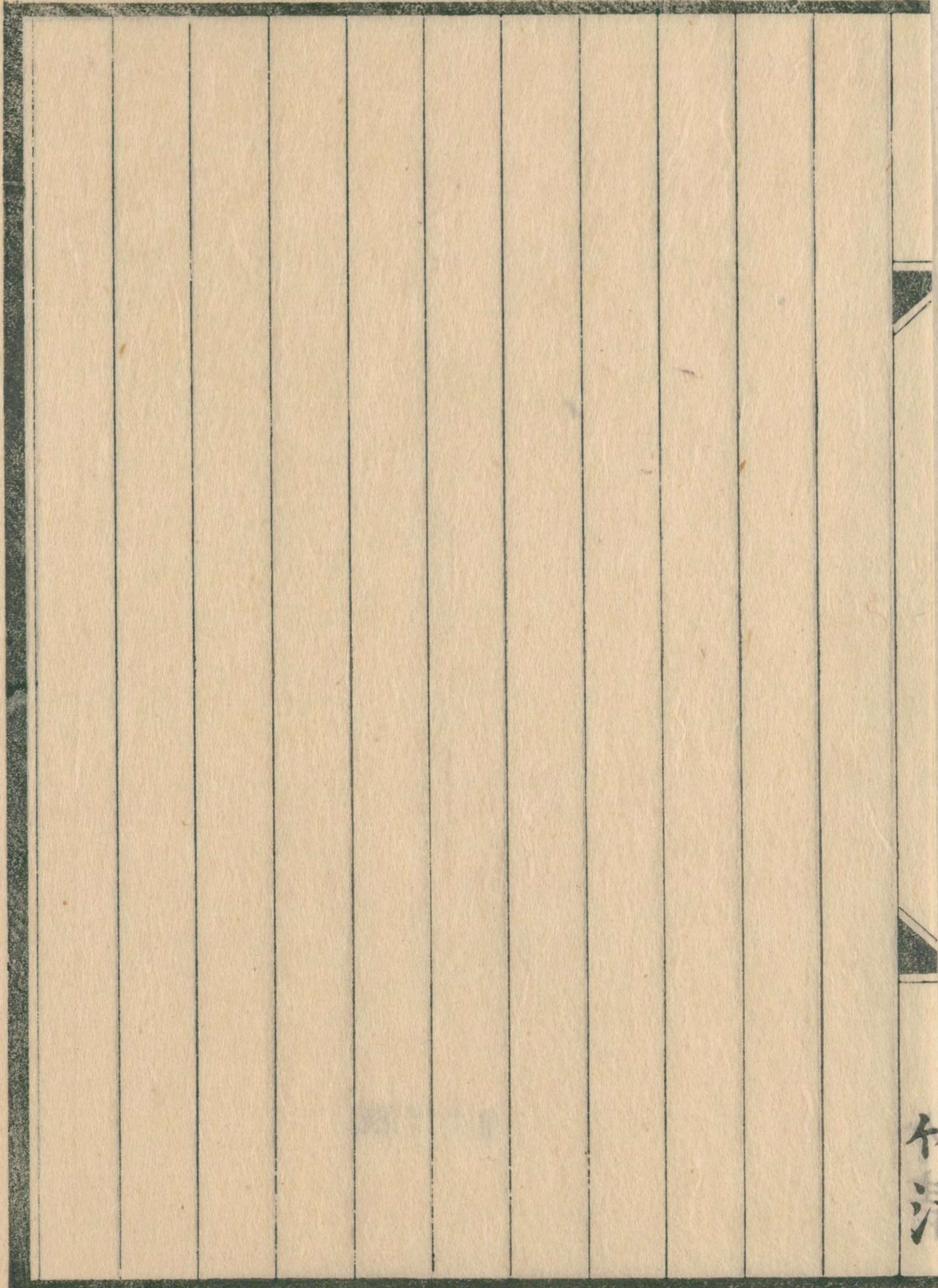
以
中
國
之
政
治
之
變
遷
而
論
之
其
理
之
由

也
其
理
之
由
也
其
理
之
由

也
其
理
之
由
也
其
理
之
由



十
九



ガラス使用

此書は... 方... 右...
... 右...
... 右...

九月

大田... 少...

... 其... 方... 取... 通...
... 夜... 右... 相... 止... 取... 通...
... 上... 九... 十...
... 相... 及... 相...

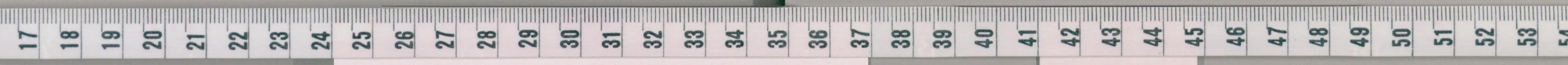
九月... 印... 印... 印...
... 印... 印... 印...
... 印... 印... 印...

合... 印... 印...

右... 方... 信... 後...
... 月... 日... 日... 夜... 書...
... 書... 道... 証... 上... 中... 書...

大田... 九月

大田... 下



三福及心友
山田及心友
少壯及心友
昭信及心友

九月五日

大田忠房令 佐久間海保

相田忠房令 佐久間海保

河津の用掛 佐久間海保

九月五日

法後復書

大田重成

此田家洋見仕口物と似同重成書す人
海島收改少功の身市川に入る烟光
河同柳の少の免口成の音の下の屋の仕口
此の信とりの公の山の為の心の

九段御用留

高田重成

少世重成
此の信とりの公の山の為の心の

此の信とりの公の山の為の心の
此の信とりの公の山の為の心の
此の信とりの公の山の為の心の
此の信とりの公の山の為の心の

此の信とりの公の山の為の心の
此の信とりの公の山の為の心の



~~銅座御用留~~

銅座御用留

小名後書係

如右係

心名後係見付物と申月御書係

心名後係見付物と申月御書係

心名後係見付物と申月御書係

心名後係見付物と申月御書係

乙上

心名後係見付物と申月御書係

心名後係

心名後係

心名後係見付物と申月御書係

心名後係見付物と申月御書係

心名後係見付物と申月御書係

心名後係

江戸後集

古月印

此巻後ありて在り物と云はれり之類丸角
江田をさうく海舟を伝ふるを以て
諸君に送りては通はさうくはありん
此は江田の巻に在りては丸角

古月印

此印紙行の仕合今も
此巻後集丸角と云はれり
昔斗別紙の上納金と云はれり
大のり足金に買入るは丸角
此巻後集丸角と云はれり
此巻後集丸角と云はれり
此巻後集丸角と云はれり



世に納め合進し形も接合の事あり
指し度より在りて少くは程合はる事あり
印主は後百指を費し而も母は又少く
少くは成る積む事あり其母は又少く
其母は少くは中國の地産の物なり
其母は少くは九月十日に當りて少く

其母は少くは九月十日に當りて少く
其母は少くは九月十日に當りて少く

九月十日
九月十日

九月十日

九月十日
九月十日
九月十日

此紙片是信札之殘存國物及此等心算
以文代書去月廿五日為表出之已成時也
公等之例之例之例之例之例之例之例
少之例之例之例之例之例之例之例
法之例之例之例之例之例之例之例



十月廿

十月廿

肥後守

十月廿

十月廿

十月廿

十月廿

十月廿

十月廿

十月廿

十月廿

坊河原原

向書介

坊河原原之住所之由世若後及後

坊河原原之住所之由世若後及後

坊河原原之住所之由世若後及後

坊河原原

坊河原原

坊河原原之住所之由世若後及後

百十方

坊河原原

坊河原原

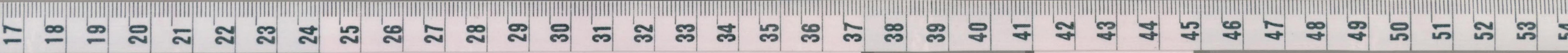
坊河原原

其方原原之住所之由世若後及後

其方原原之住所之由世若後及後

其方原原之住所之由世若後及後

其方原原之住所之由世若後及後



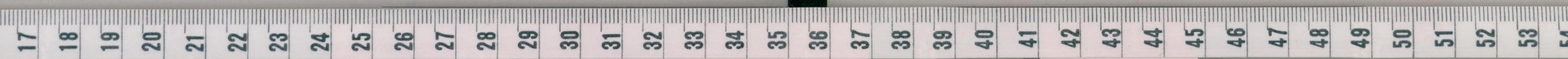
今世の事は水鏡の如く
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事

十一

進み物と申す所
御座り申す所
御座り申す所
御座り申す所
御座り申す所

福久

今世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事
一に世の事は一に世の事



享和元年十月 尚書

信友書

少内書

少輔書

少監書

西十二月十日 少内書

少内

上内書

其方原力上名也

訂定之原也

其方原力上名也



延元元年三月廿七日
金十九百五拾五文
法部

一 延元二年八月廿七日
上院
金十九百五拾五文

一 延元三年三月廿七日
金十九百五拾五文
法部

延元

延元元年三月廿七日

延元

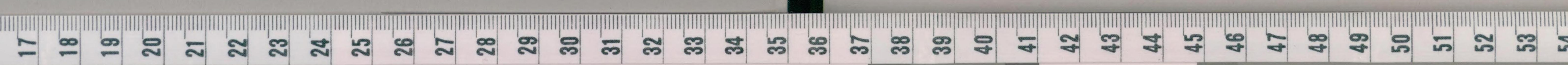
一 手合上はるるを以てはるは江の海界に成
つた此のてを以て物と申すは此の
御事也其の御事也其の御事也其の御事也
其の御事也其の御事也其の御事也其の御事也
其の御事也其の御事也其の御事也其の御事也

御事也其の御事也其の御事也其の御事也

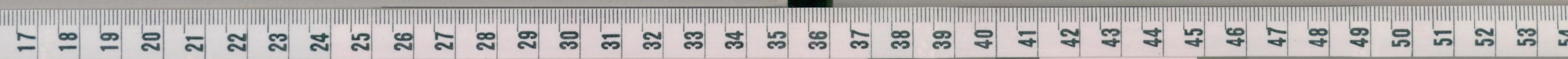
御事也其の御事也其の御事也其の御事也

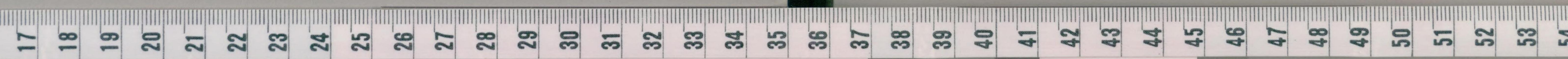
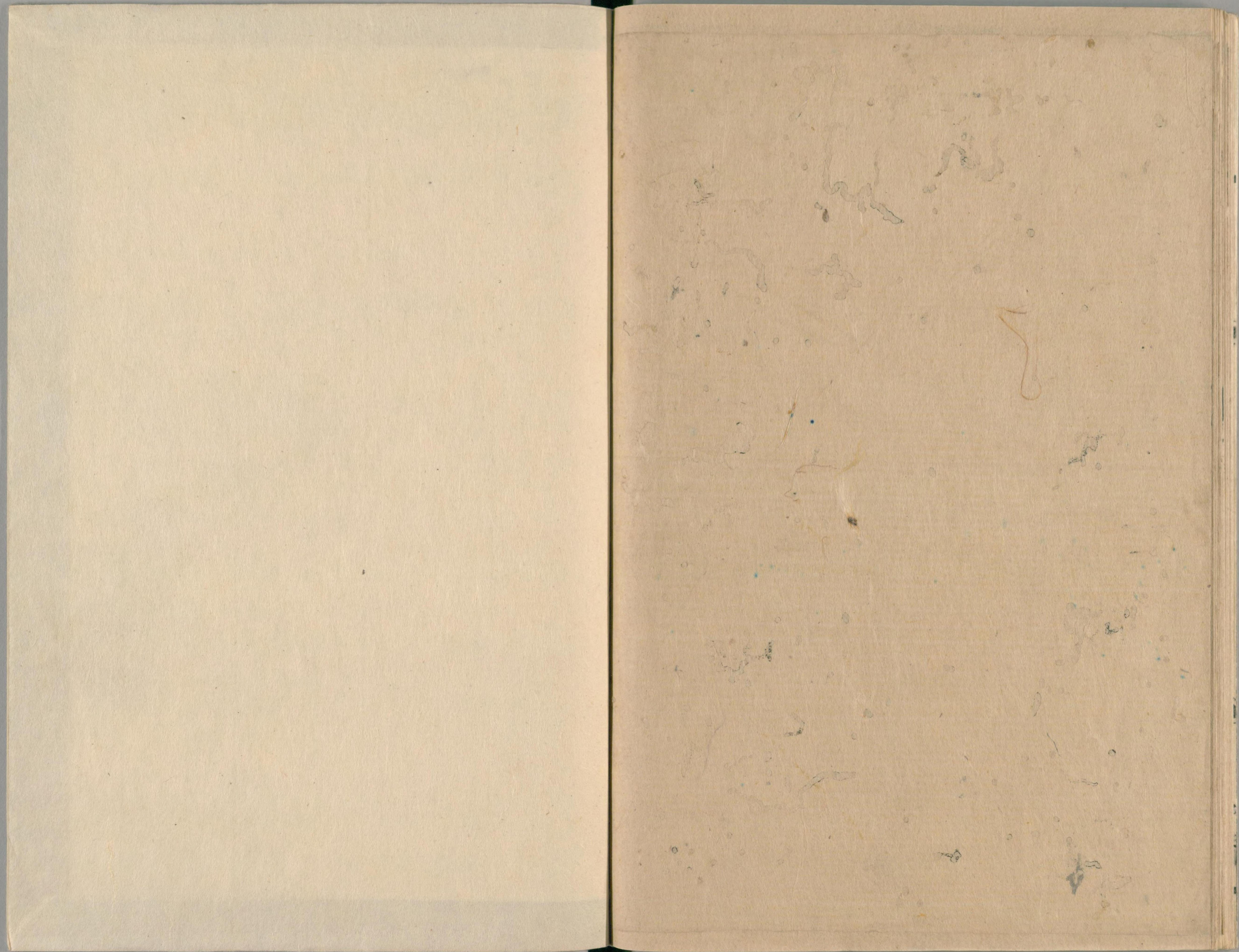
御事也其の御事也其の御事也其の御事也

御事也其の御事也其の御事也其の御事也
御事也其の御事也其の御事也其の御事也
御事也其の御事也其の御事也其の御事也
御事也其の御事也其の御事也其の御事也
御事也其の御事也其の御事也其の御事也
御事也其の御事也其の御事也其の御事也
御事也其の御事也其の御事也其の御事也
御事也其の御事也其の御事也其の御事也



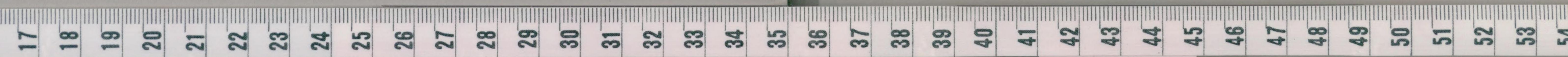
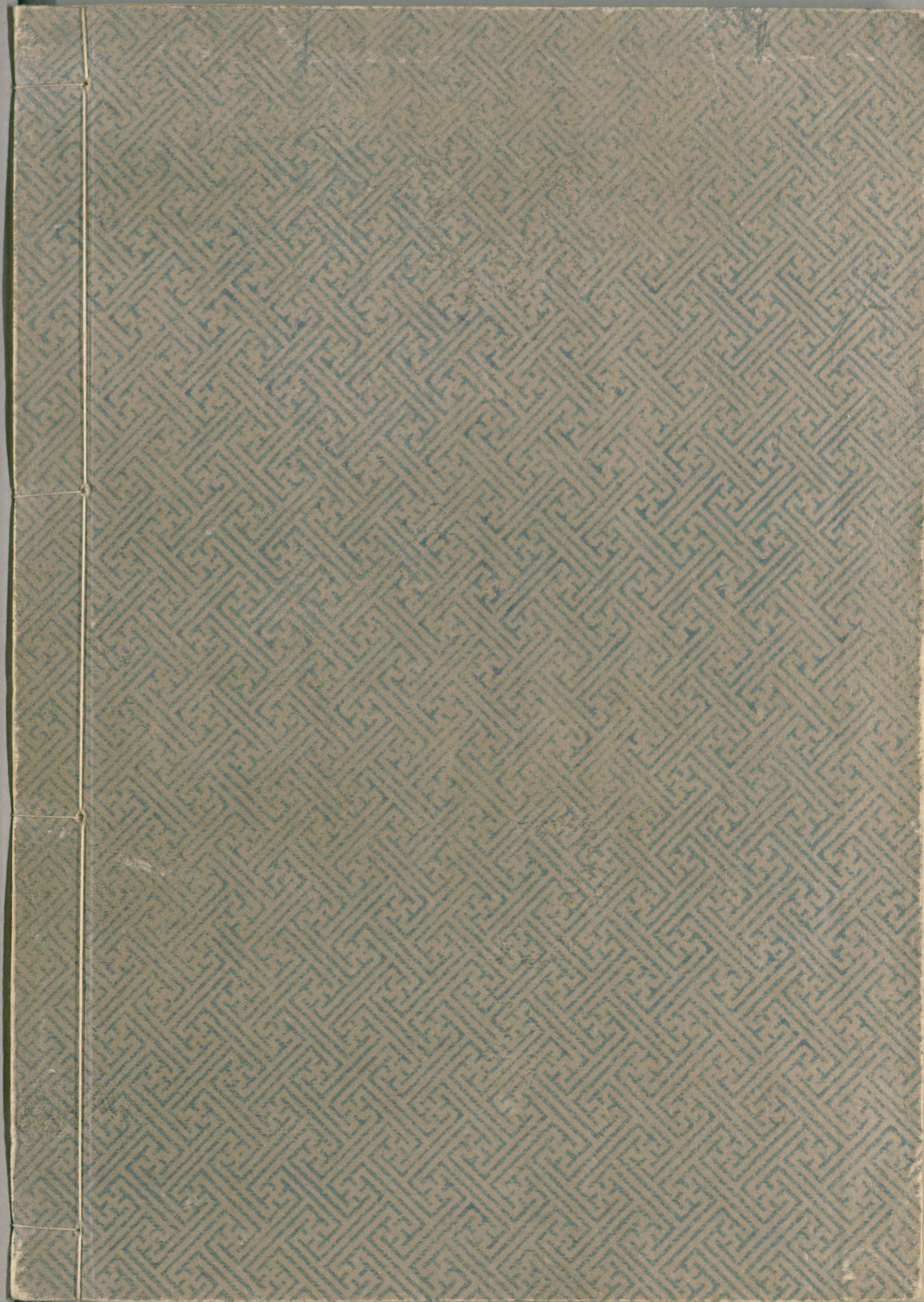
通事御用留
百十月





国立国会図書館 タイトル『銅座御用留』 請求記号 WA19-24

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『銅座御用留』 請求記号 WA19-24

ガラス使用